

◆ 活動事例発表 ◆



専務理事
大隅 尚行氏

◆山形県木材産業協同組合

構成員は賛助会員を合わせ、約160社で、素材生産から、製材加工、市場、木材販売、プレカット、木工加工等、幅広い業種を網羅しており、県内では最大規模の木材関係団体となっている。

木造住宅等地域材利用拡大事業では、次のような事業を行い、地域材の普及啓発とこれまでにない視点(マスコミとの連携強化)による実施や規模で取り組むことができた。(1)親子森林・木造住宅体感バスツアーの開催、(2)県内各地の地域材を活用した住宅パンフレットの作成、(3)県産木材や事業等をPRするTV番組の制作と放映、(4)郊外型ショッピングモールでの常設展示と人気コメディアンを活用したイベントの開催、(5)普及啓発用の木製品開発と県産木材のPRチラシの作成配布、(6)県内外イベントでの県産木材と建築技術を活用した構造躯体等の効果的展示。

今後は、他県産に対抗できる品質性能の保証された製品の生産体制確立や県産木材製品に関する全国的PRの強化等の取り組みを実施していく。



理事長
逸見 朋愛氏

◆企業組合かほく冷たい肉そば研究会

企業組合かほく冷たい肉そば研究会は、冷たい肉そばを河北町ブランドとし、「まちおこし」を行うため、設立した。

2014年10月18日、19日、福島県郡山市にて日本最大級のまちおこしイベントとして認知されている「B-1グランプリ～東北・福島応援特別大会～」へ参加し、59の参加団体の中で8位入賞を果たした。来場者数は2日間で約45万人が来場した。

地域への働きかけとしての活動では、地元小学生がPRソング「かほく肉そば賛歌」への協力や小学生・地域住民を対象に町を知り、地域おこし応援団になってもらう食育事業を実施している。「山形ご当地グルメフェスティバル2013inかほく」では、ボランティアに2日間で地元住民・学生525名の協力を得て開催し、25,000人のお客様を迎えることが出来た。また、これによりイベント後に来町者が増加した。

将来に向けての計画として、地元とのさらなる連携を図り、地域の魅力を発信。また、「そば」だけでなく地域産品の開発、販売、イベント出展、インターネット販売に加えて地元常設店や提供場所の確保を行っていく。



代表取締役
今野 博氏

◆株式会社サカタフーズ

健康面に配慮した食品の需要は年々高まっており「糖質カット商品」が注目を浴びている。

このような背景の中で、社内にプロジェクトを立ち上げ、ハンバーグの中で主な糖質の素となる小麦(パン粉)と卵を使用せずに糖質を抑え、さらに国産原料と味にもこだわった、独自の「糖質カットハンバーグ」の開発・商品化に取り組んでいる。

開発した糖質カットハンバーグの優位性などを評価し、従来製品との差別化を図るなど、新商品の販売促進に向けて取り組んでいる。県立米沢栄養大学の協力を得て、食後の血糖値に与える影響評価・分析等を行ってもらい、科学的なデータをもとにした機能性評価を活用しながら、新しい販路の開拓・販売促進を図っていきたいと考えている。

平成26年度トータルサポート補助金設備投資等促進事業によりミキサー、充填機(成型)、オープンなどの糖質カットハンバーグ製造設備の導入を行った。

平成27年度トータルサポート補助金コンサルティング活用販路開拓等支援事業では、コンサルティングを活用し、新商品の機能性評価等を踏まえて、これまでのメイン取引先であった百貨店、スーパー、自然食品店などの小売店(事業者間取引:BtoB)に加え、新たな販路の開拓等に取り組んでいるところであり、特に一般消費者を意識した販路の開拓(消費者向け販売:BtoC)の視点での取り組みを進めている。

その後、「会員の集い懇親会」を開催し、吉村知事との懇談や会員同士で情報交換を実施した。